

競技注意事項

1. 本大会は、2024年度 公益財団法人日本陸上競技連盟競技規則を適用し、大会要項および本大会申し合わせ事項により運営する。
2. スタートの合図はすべてイングリッシュコールとする。
3. 招集は、現地招集のみとし、棄権する場合は、現地での最終招集完了の30分前までに選手受付のスタートリストに×を書くこと。トラック種目は10分前までに、フィールド種目は15分までにスタート場所付近および競技場所にて招集を受けること。現地での招集を受けない場合は棄権と判断する。
4. リレーオーダー用紙は競技者受付時に受け取り、競技開始時刻60分前までに正式オーダーを提出する。
5. アスリートビブスは全競技者胸部と背部に密着のこと。ただし、跳躍競技の選手については胸か背のどちらか一方でよい。
 - ②腰ナンバーについては、レーンナンバーとする。借用したナンバーは競技終了後に速やかに受付においてあるカゴへ返却すること。
 - ③3000m以上の長距離種目については、主催者で準備する別ナンバー（胸・腰の二点）を用いる。
6. 競走競技における走路順およびフィールド種目の試技順とも、プログラム記載の順序とする。ただし、トラック種目とフィールド種目を兼ねて出場する際、トラック種目を優先とし、競技場所を離れる際は必ず現場の審判員に申し出て指示に従うこと。
7. 走高跳バーの上げ方（天候あるいは現場の状況により変更することがある）
 - 走高跳（小学生男女） 練習90cm、95cm、1m00・・・
 - 走高跳（男） 練習1m50、55、60、65・・・
 - 走高跳（女） 練習1m15、20、25・・・
8. 各種目とも、一般・実業団の部のみ上位3位まで、表彰状を授与する。
9. フィールド種目について、秋季記録会の部は3回、一般・実業団の部はトップ8による6回の試技とするが、天候やグラウンドコンディションなど、現場の状況に応じて試技を3回する場合もありうる。
10. 小学生が出場する競技について
 - ①100mはクラウチングスタートとし、スタンディングでのスタートは認めない。小学2年生以下については、スターティングブロックを用いなくてもよい。同一の競技者が二度目の不正スタートした場合に失格とする。
 - ②走幅跳およびジャベール投は2回の試技とし、2回の試技で記録がない場合のみ 3回目の試技を行う。なお、走幅跳については、踏切板から砂場に到達しない選手は計測しない。（2m00）
 - ③走高跳について、かかと以外からのマットへの着地は無効試技とし、3回連続で失敗した場合に競技終了とする。
 - ④厚底シューズについては、特に規定を設けない。

- 1 1. 競技場内でのウォーミングアップは、8：20まで使用可とする。それ以降は、400m以上の周回競技が行われていない時間帯のみ、競技場バックストレート走路を使用することができる。その場合、現場の審判員の指示に従うこと。
- ②ハードル練習は、10時00分からバックストレート走路で可とする。ハードルは4台準備する。
8レーン：110mH 7レーン：中学110mH 6レーン：女子100mH 5レーン：中学女子100mH
- ③リレーのバトン練習は、11時00分よりバックストレート走路および曲走路で可とする。
- 1 2. 大会中に生じた事故・傷害・疾病については、応急処置および主催者側が加入する保険の範囲（死亡後遺症200万円、入院一日3000円、通院一日1000円 熱中症危険担保）での対応とし、その後一切の責任を負わないものとする。
- 1 3. 競技中、気象庁による警報、注意報の発令など、競技会運営が困難となった場合、大会中止の判断を下すこともあり得る。その際、大会参加費の返却には一切応じない。